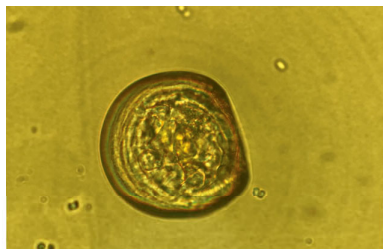
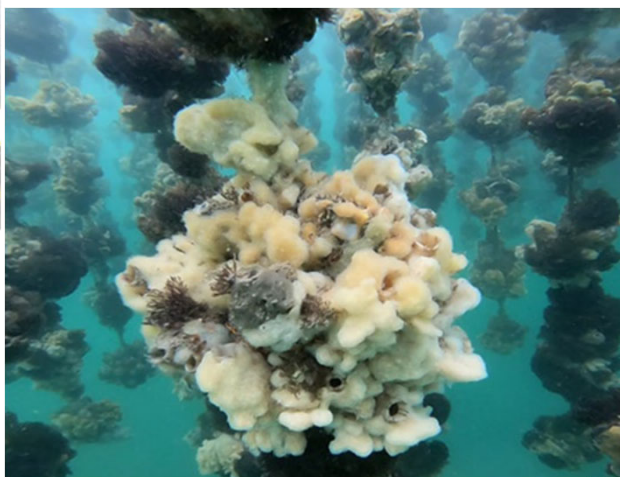
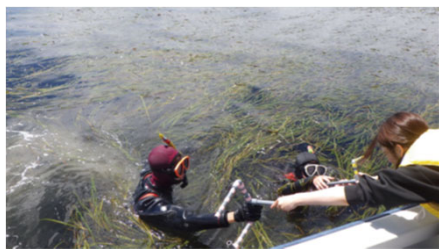


# 令和4年度若手研究者活動支援制度助成金 公開成果発表会

国際エメックスセンターは、閉鎖性海域の環境保全に資する研究に取り組む優れた若手研究者を育成支援に取り組んでいます。令和4年度の助成対象となった7名の若手研究者が得た研究成果を広く一般のみなさんに知っていただくため、公開成果発表会を開催します。若手研究者の新しい研究にご興味のある方は、ぜひご参加ください。



参加費  
無料

2023年  
5月15日(月) 11:00~16:00

スペースアルファ三宮 大会議室

〒651-0021 神戸市中央区三宮町1-9-1 三宮センタープラザ6F

定員 先着250名

会場参加 定員50名  
Zoomウェビナー定員200名

【電車をご利用の場合】

- ・JR「三ノ宮」駅、各線「三宮」駅より徒歩約5分
- ・地下鉄海岸線「三宮・花時計前」駅より徒歩約3分

11:00	開会の挨拶		岡田 光正 研究指導員
11:05	研究発表	季節変化を伴う牡蠣と微細藻類間における必須脂肪酸組成の関係性	香川大学 農学部 中國 正寿
11:35	研究発表	有明海に面する緑川河口干潟におけるアサリ資源回復に向けた統合的研究（その2）：アサリの死亡要因を広域のかつ定量的に評価するための俯瞰的調査手法の確立	熊本県立大学 環境共生学部 小森田 智大
12:05	研究発表	栄養塩類の増加措置による特定・沖合・隣接海域への好悪影響の解析	大阪大学 大学院工学研究科 中谷 祐介
		休 憩	
14:00	研究発表	陸域から供給されるケイ素の歴史的変遷と干潟生態系の群集構造に与える影響(その2)	九州大学 大学院工学研究院 藤林 恵
14:30	研究発表	二枚貝浮遊幼生の餌である微小珪藻類の我が国沿岸域における分布と増殖特性 に関する研究	水産研究・教育機構水産技術 研究所廿日市拠点 岡村 知海
15:00	研究発表	有明海における遡河回遊魚エツの産卵・回遊生態の解明と保全に関する総合的研究	東京大学 大気海洋研究所 板倉 光
15:30	研究発表	北海道厚岸湖のアマモ場における透明細胞外重合物質粒子（TEP）の変動要因の解明	北海道大学 北方生物圏フィールド 科学センター厚岸臨海実験所 伊佐田 智規
16:00	総括 閉会		

〔主催〕（公財）国際エメックスセンター

詳細はHPをご覧ください <https://www.emecs.or.jp/topics/20230515>

参加費  
無料

# プログラム

中国 正寿  
香川大学 農学部  
博士研究員



海の冬の味覚といえば？「牡蠣」と答える人も多いのではないのでしょうか。しかしながら、牡蠣の成長やそこに含まれる栄養素、そして餌と栄養素の関係性については、未解明の部分が多くあります。本発表では、牡蠣中の栄養素としてエイコサペンタエン酸（EPA）やドコサヘキサエン酸（DHA）などの必須脂肪酸組成の変化を追うとともに、その変化時における餌である植物プランクトン中のそれらの栄養素との関係を調べることにしました。

小森田 智大  
熊本県立大学  
環境共生学部  
准教授



この研究では、過去の一大アサリ産地であった有明海に面する緑川河口干潟で、エイ類によるアサリの捕食量を見積もりました。その結果、アサリの個体数減少速度に対して、エイ類による捕食がおよそ10%程度しか占めないことが分かりました。この結果がすべての干潟に当てはまるとは限りませんが、少なくとも今回調査した干潟では、エイ類による捕食がアサリの個体群減少に対して限定的であることが分かりました。今後は、エイ以外にもカモ類による捕食や波浪による散逸などについても調べていき、干潟の生物生産を持続的に活用するための知見を増やしていきたいと考えています。

中谷 祐介  
大阪大学大学院  
工学研究科  
准教授



貧栄養化が近年指摘されている瀬戸内海の一部海域では、沿岸事業場からの栄養塩供給量を増加させる措置が行われています。しかし、生物生産性の向上や水産資源の確保に本当に寄与するのかという点については、十分な評価はなされていません。今回の発表では、東部海域で実施されている栄養塩類増加措置が養殖ノリの成長へ及ぼす影響について、スーパーコンピュータを用いて実施した数値シミュレーションの結果をご報告します。

藤林 恵  
九州大学 大学院工学  
研究院  
助教



干潟や沿岸域の主要な生産者である珪藻の増殖には溶存態ケイ素（Dsi）の供給が不可欠です。本研究では、ダム、下水処理施設、河道内植生、水田がDsi動態に与える影響や、Dsi供給量の歴史的変遷について福岡県の瑞梅寺川流域を対象として調査・研究を進めています。その結果、人為活動が流域のDsi動態に無視できない影響を与えていることが見えてきました。将来的には、沿岸域の生産性や健全性を高めるための流域管理手法を提案することを目指しています。

岡村 知海  
水産研究・教育機構  
水産技術研究所廿日市拠点  
研究員



最近の研究で微小珪藻類が二枚貝浮遊幼生の餌として好適で、それらが繁茂することが二枚貝類の生産にとって重要であることが示唆されました。瀬戸内海では、二枚貝類の減少が問題となっています。本課題では、瀬戸内海広域で微小珪藻類の発生状況を調べました。さらに、各種微小珪藻類の大量発生メカニズムの解明を試みました。

板倉 光  
東京大学  
大気海洋研究所  
助教



エツという魚をご存知でしょうか？カタクチイワシの仲間であるエツは東アジアに広く分布し、日本では有明海にのみ生息します。彼らは閉鎖性海域、特に高濁度域に依存し、海と川間を回遊するため、高濁度域の健全性や海と川の接続性を示す良い指標になり得ます。私は本種の産卵・回遊生態の理解を通して、閉鎖性海域の環境やエツ資源の保全に貢献することを最終目標として研究を進めています。

伊佐田 智規  
北海道大学北方生物圏フィールド  
科学センター厚岸臨海実験所  
准教授



アマモ場によって吸収・貯蔵される炭素「ブルーカーボン」は、気候変動緩和機能として重要です。アマモの地下茎などが主な炭素貯蔵物ですが、藻場で生成される透明細胞外重合物質粒子も、粒状有機物を凝集させる接着剤として働き、ブルーカーボンになり得ます。正確な藻場炭素循環の理解から、ブルーカーボン生態系保全へ貢献する事を目指しています。

## 【参加申し込みについて】

WEB参加ご希望の方は、[Zoomウェビナー](https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_ayXOoHS2SniG5S9LfFEbrQ)からお申込みください。

会場参加ご希望の方は、[Googleフォーム](https://forms.gle/UmKFAMbqCduqGsZK9) (https://forms.gle/UmKFAMbqCduqGsZK9)

もしくは、下記の申込書に必要事項をご記入の上、国際エメックスセンターへメールでお申込みください。



Zoomウェビナー  
QRコード



Googleフォーム  
QRコード

## 令和4年度若手研究者活動支援制度助成金 公開成果発表会 会場 参加申込書

お名前	所属	役職等	参加方法	E-mail
			会場	
			会場	

### 【お問合せ・参加申込先】

(公財)国際エメックスセンター (担当:大輪)  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番2号  
TEL 078-252-0234 FAX 078-252-0404

詳細HP <https://www.emecs.or.jp/topics/20230515>

人と防災未来センター 東館5階  
E-mail [secret@emecs.or.jp](mailto:secret@emecs.or.jp)

